

大阪市立東三国中学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【基本配付】
実施報告書（補足説明資料）

本校では、「生徒が協働できる集団づくりなどを積極的に導入し、生徒の過ごしやすい学校づくりに尽力し、令和元年度の校内アンケートにおける『自分にはよいところがあると思いますか』の項目について、『当てはまる』と答える生徒の割合を平成 29 年度より向上させる」、「I C T 機器等を活用した授業を活性化させ、令和元年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の平均正答率を昨年度より上げ全国平均に近づける」、「令和元年度における校内アンケートで『授業がわかりやすい』と答える生徒の割合を全体の 73%以上にする」ことを年度目標とし、年度目標に応じた事業効果を測る指標として、「①各取組でアンケートを実施し、『理解できた』の割合を 80%以上にする」、「②校内アンケートで、『授業がわかりやすい』と答える生徒の割合を 73%以上にする」、「③学校における教育の情報化の実態などに関する調査」（文科省）において、教員の生徒の I C T 活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合を 65%以上にする」、「④生徒アンケートで、『運動することが好き』と回答する割合を 67%以上にする」ことを設定した。

上記を達成するために、以下の 4 つの取組を行った。

1. 取組内容（1）について

1－1. 取組を実施する必要性

本校では、校内アンケートで、「自分によりよいところがあると思う」と答えた生徒の割合は昨年度より上がってきているが、全国平均と比べると、生徒の自尊感情の低さが本校の課題である。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における「施策 2 道徳心・社会性の育成」の一環として、「①人権を尊重する教育『平和・男女共生教育・国際理解教育』の指導を進める」ことを実施した。また、「②キャリア教育を充実させ、適切な職業観や勤労に対する意識を育成する」ことを実施した。また、「③品格教育を推進し、ポスターや全校集会で啓発を行う」ことを実施した。

1－2. 取組を実施することにより期待できる効果

「人権を尊重する教育『平和・男女共生教育・国際理解教育』の指導を進める」ことで、自分自身を大切にする自尊感情を高めることが期待できる。また、「キャリア教育を充実させ、適切な職業観や勤労に対する意識を育成する」ことで、自分自身の将来を見つめ進路選択する意識を育てることが期待できる。また、「品格教育を推進し、ポスターや全校集会で啓発を行う」ことで、品格に関わる行為を習慣づけることが期待できる。

1－3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、下記のとおりである。

①外部講師による講話

具体的には、1・2 年性教育として、「いのちの授業」を、外部講師として、病院の助産師に来ていただき、命がどうやって生まれてきたのかを知って、自分の大切さについて学びました。妊婦さんにも来ていただきおなかを触らせてもらったり、乳幼児をだっこしたりして、実際の命を感じる授業となりました。3 年平和教育として戦場記者を講師として、3 年男女共生教育としてデート

D V を、3 年マナー学習として面接練習、全学年が L G B T の学習を受けた。

②品格教育ポスターの掲示

具体的には、東三国中学校区内の保育園、小学校、中学校、専門学校、各地域のコミュニティを巻き込んで、品格に関わるよい行為を習慣づけるため、短い言葉とキャラクターとともにポスターとして印刷し掲示している。

③特別の教科道德の授業の実施

具体的には、道德の完全実施のため、年間カリキュラムを作成し、授業時数を確保し計画的に実施するため、各学年用の道德教科書と道德ノートを購入しスキャンして、I C T 機器でも掲示して授業ができるようにした。

1－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：B

・評価理由：

取組内容①においては、専門的な外部講師により、自分を大切にする学習をすることができた。また、取組内容②においては、毎月品格ポスターを作成して校区各所に配布し掲示できた。全校集会においても品格ポスターに関わって校長講話を実施できた。また、取組内容③においては、全学年の道德教科書をスキャンして授業で活用することができた。

以上の成果から、B 評価とした。

2. 取組内容（2）について

2－1. 取組を実施する必要性

本校では、校内アンケートで、「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」、「授業がわかりやすい」、また、「授業でグループやペアで話し合ったりする協働学習の授業はわかりやすい」と答える生徒は、昨年度より上がり目標も達成しているが、さらに向上を目指して取り組む必要がある。上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における「施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組」の一環として、「①習熟度別少人数授業など個に応じた指導を充実させる。」ことを実施した。

2－2. 取組を実施することにより期待できる効果

「習熟度別少人数授業など個に応じた指導を充実させる」ことで、各学年の教科学習において、個に応じたわかりやすい授業や、対話的、協働的な学習を進めることが期待できる。

2－3. 具体的な実施内容

①必要に応じたカラー資料の作成

具体的には、教科指導の内容に応じてカラー資料を印刷し、わかりやすい授業に努めた。

②対話的、協働的な学習の推進

具体的には、全学級に8枚ホワイトボードをおき、グループ学習で活用している。

2－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：B

・評価理由：

取組内容①においては、わかりやすい授業の創造に寄与できた。また、取組内容②においては、対話的で協働的な学習を継続して行い、グループ学習を取り入れた授業を推進することができた。

以上の成果から、B評価とした。

3. 取組内容（3）について

3－1. 取組を実施する必要性

本校では、校内アンケートで、「ICT機器を使った授業はわかりやすい」と答える生徒の割合は下がった。しかし、タブレット活用は1学級あたりの月平均活用数は高く、ICTを活用した授業が常時当たり前となっている。さらに、ICT機器を効果的に活用して必要がある。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における「施策6 国際社会において生き抜く力の育成」の一環として、「①ICTを活用した教育の推進し、生きる力を備えた子どもの育成を図る」ことを実施した。

3－2. 取組を実施することにより期待できる効果

「ICTを活用した教育の推進し、生きる力を備えた子どもの育成を図る」ことで、よりわかりやすい授業をすすめることが期待できる。

3－3. 具体的な実施内容

①全教室に超短焦点プロジェクターを設置

具体的には、計画的に超短焦点プロジェクターとマグネットスクリーンを整備する。

②タブレットの効率的な活用

具体的には、タブレットを活用しやすいようにキーボードを購入。

3－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：A

・評価理由：

取組内容①においては、計画的に全教室に整備することができた。また、取組内容②においては、有効的に活用すべく既存の備品を補充でき、タブレットの活用が十分でき、1学級あたりの月平均活用数は非常に高い。

以上の成果から、A評価とした。

4. 取組内容（4）について

4－1. 取組を実施する必要性

本校では、校内アンケートで、「運動することが好き」と答える生徒は、昨年度より増加してきているものの全体に低く、全国体力・運動能力調査では、全国平均をこえない項目も多く、保健体育科の授業が基礎体力とし、休み時間の外遊びなど積極的に日常的に身体を動かす習慣をつけさせる必要がある。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における「施策7 健康や体力を保持増進する力の育成」の一環として、「①子どもの体力・運動能力向上のため、体育の授業だけでなく、昼休みや、学活、総合の時間に運動をする取り組みを推進する」ことを実施した。

4－2. 取組を実施することにより期待できる効果

「子どもの体力・運動能力向上のため、体育の授業だけでなく、昼休みや、学活、総合の時間に運動をする取り組みを推進する」ことで、日常的に身体を動かす習慣をつけさせることが期待できる。

4－3. 具体的な実施内容

①ポータブルワイヤレスアンプの整備

具体的には、ポータブルワイヤレスアンプを活用し、生徒たちに適切な指示をだし、運動をする取り組みを推進する。

4－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：B

・評価理由：

取組内容①においては、ワイヤレスアンプを運動場や体育館での授業などで有効活用をすることができた。

以上の成果から、B評価とした。

5. 総論

5－1. 年度目標の達成状況、総評

本校では、上記の取組を実施することにより、「令和元年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の平均正答率を昨年度より上げ全国平均に近づける」、「令和元年度における校内アンケートで『授業がわかりやすい』と答える生徒の割合を全体の 73%以上にする」という年度目標に対して、全国学力・学習状況調査では、国・数・英とも全国平均をこえることができた。また、わかりやすい授業についても、目標を達成することができた。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「B」評価とした。

5－2. 学校協議会における意見

本年度の学校の自己評価結果は妥当である。各種の調査結果等の分析を行い、具体的な施策に取り組み、課題を明確にしながら、適切な教育活動が行われ成果をあげてきている。

生徒たちは、非常に落ち着いた環境の中で、授業や各行事にしっかり取り組み、安心して学校生活を送っている。学校元気アップの取り組みなど、地域と学校との連携を密にしながら、防災活動にも重点を置き、生徒のボランティア活動も充実したものとなっている。

I C T機器など教育環境が計画的に整備され、それらを活用し充実した教育活動が推進されている。学力の着実な向上にむけて、授業の改善や工夫も進められ少しずつ成果として現れてきている。また、ホームページなどで日々の教育活動がよくわかるようになってきた。